

現代福祉学部 推薦図書一覧

現代福祉学部にご入学予定の皆さんへ

現代福祉学部は「誰もが心豊かに暮らせる新たな福祉社会の構築」を担う人材の養成を目指し、「福祉」・「地域づくり」、「臨床心理」の3領域を複合化した特色あるカリキュラム（教育課程）を組んでいます。福祉コミュニティ学科または臨床心理学科のどちらかに入ることになりますが、入学後、自分で履修科目を選んで受講します。学部のカリキュラムの意図するところを正しく理解し、系統的な履修計画が立てられるかどうか、皆さんの大学生活の「質」を左右することになります。この計画により大学卒業後の人生が決まる、といっても過言ではないでしょう。

現代福祉学部では、皆さんが入学するまでの間に学部で学び始める準備ができるよう、学部教員の推薦を基に推薦図書一覧を選定しました。以下のリストは、「Ⅰ人間・社会・歴史を知る」「Ⅱ福祉への招待」「Ⅲ地域づくりへの招待」「Ⅳ心理への招待」「Ⅴ読書と文章表現そして論文・レポートの書き方」の5部から成っています。収録された作品は皆さんの人間的な成長と、専門的な視野の形成と、専門知識の習得に役立つものばかりです。これらのなかから、入学までに最低5点は読んでおいていただけるとのよう念願します。一つの領域だけに特化した読書ではなく、複数の領域から選択するよう心がけてください。そうすれば、本学部がめざす「複眼的に物事をみることができ、環境の変化に対する適応力が高い」専門職の養成という目標に向かって第一歩を踏み出すことができるでしょう。

インターネットの書籍案内等を検索し、内容や書評を調べてみてください。インターネットを自在に活用できるようになれば、あなたの知的世界は一段と広がることでしょう。

I 人間・社会・歴史を知る

1. ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて第二次大戦後の日本人 増補版』（上・下）岩波書店 2004年
2. 内藤朝雄『いじめの構造—なぜ人が怪物になるのか』講談社現代新書、2009年
3. 北山忍『文化が違えば、心も違う？—文化心理学の冒険』岩波新書、2025年
4. 小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書、2019年
5. 橋本健二『新しい階級社会 最新データが明かす格差拡大の果て』講談社現代新書、2025年
6. 友松夕香『グローバル格差を生きる人びと—「国際協力」のディストピア』岩波新書、2025年
7. 広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社、2019年
8. 広井良典『商店街の復権—歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024年
9. 小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年
10. 富永京子『なぜ社会は変わるのか はじめての社会運動論』講談社現代新書、2025年
11. 小川公代『ケアの物語 フランケンシュタインからはじめる』岩波新書、2025年
12. 岡野八代『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』岩波新書、2024年
13. 神島裕子『正義とは何か—現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年
14. 田中拓道『リベラルとは何か—17世紀の自由主義から現代日本まで』中公新書、2020年
15. 水島治郎『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書、2016年
16. 齋藤純一『不平等を考える：政治理論入門』ちくま新書、2017年
17. ナンシー・フレイザー『資本主義は私たちをなぜ幸せにしないのか』ちくま新書、2023年
18. 松沢裕作『歴史学はこう考える』ちくま新書、2024年
19. 辻田真佐憲『「戦前」の正体 愛国と神話の日本近現代史』講談社現代新書、2023年
20. 内務省研究会（編集）『近代日本に君臨した巨大官庁』講談社現代新書、2025年
21. マット・リドレー『繁栄 明日を切り拓くための人類10万年史』ハヤカワ文庫 2013年
22. ユヴァル・ノア・ハラリ『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』（上・下）河出文庫 2023年

23. スティーブン・ピンカー『人間の本性を考える 心は「空白の石版」か』（上・下）ちくま学芸文庫
2025年

Ⅱ 福祉への招待

ソーシャルワークに関するもの

1. 北川清一・久保美紀編著『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房、2017年
2. F・P・バイステック著・尾崎新他訳『ケースワークの原則—援助関係を形成する技法』誠信書房、2006年
3. 高良麻子・佐々木千里『ジェネラリスト・ソーシャルワークを实践するために—スクールソーシャルワーカーの事例から』かもがわ出版、2022年
4. 坂本いづみ他『脱「いい子」のソーシャルワーク』現代書館、2021年
5. 井手英策・柏木一恵・加藤忠相・中島康晴『ソーシャルワーカー—「身近」を革命する人たち』ちくま新書、2019年

高齢者に関するもの

6. 有吉佐和子『恍惚の人』新潮社、1972年
7. シモーヌ・ド・ボーヴォワール著・朝吹三吉訳『古い』（上・下）人文書院、1972年
8. アードマン・B・パルモア著・鈴木研一訳『エイジズム：高齢者差別の実相と克服の展望』明石書店、2002年
9. 河合 克義『大都市のひとり暮らし高齢者と社会的孤立』法律文化社、2009年
10. 若月澪子『ルポ過労シニア：「高齢労働者」はなぜ激増したのか』朝日新聞出版、2025年
11. 関ふ佐子『高齢者法の理論と実務』中央経済社、2025年

難病・障害に関するもの

12. 渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ 一筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』文藝春秋社、2013年
13. 熊谷晋一郎『当事者研究 等身大の<わたし>の発見と回復』岩波書店、2020年
14. ミケーレ・ザネッティ、フランチェスコ・パルメジャーニ、鈴木 鉄忠、大内 紀彦(翻訳)『精神病院のない社会をめざして バザーリア伝』岩波書店、2016年
15. 頭木弘樹『食べることと出すこと』医学書院、2020年
16. 東田直樹『自閉症の僕が跳びはねる理由』角川文庫、2016年
17. 伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』光文社新書、2015
18. 五十嵐大『「コーダ」のぼくが見る世界—聴こえない親のもとに生まれて』紀伊國屋書店、

格差・貧困に関するもの

19. 岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書、2007年
20. 藤田孝典『貧困世代』講談社現代新書、2016年
21. 杉村宏『人間らしく生きる』放送大学叢書、2010年
22. 生田武志『〈野宿者襲撃〉論』人文書院、2005年
23. 稲葉剛『貧困の現場から社会を変える』POSSE 叢書、2016年
24. 藤原辰史『給食の歴史』岩波新書、2018年
25. 唐鎌直義『脱貧困の社会保障』旬報社、2012年
26. 藤田孝典『ひとりも殺させない』堀之内出版、2013年
27. 斎藤貴男『機会不平等』岩波現代文庫、2016年
28. 岩田正美『貧困の戦後史』筑摩選書、2017年
29. 志水宏吉『ペアレントクラシー 「親格差時代」の衝撃』朝日新書、2022年
30. 竹信三恵子『女性不況サバイバル』岩波新書、2023年
31. 東海林智『ルポ 低賃金』地平社、2024年
32. 志賀信夫『貧困とは何か』ちくま新書、2025年

子ども・若者に関するもの

33. 井上寿美・笹倉千佳弘『子どもを育てない親、親が育てない子ども』生活書院、2015年
34. 朝日新聞取材班『子どもと貧困』朝日新聞出版、2018年
35. 児玉真美『殺す親 殺させられる親』生活書院、2019年
36. 宮口幸治『ケーキの切れない非行少年』新潮新書、2019年
37. 上野加代子『虐待リスク構築される子育て標準家族』生活書院、2022年
38. 中塚久美子『子どもと女性の暮らしと貧困』かもがわ出版、2024年
39. 青砥恭『貧困・孤立からコモンズへ 子どもの未来を考える』太郎次郎社、2024年
40. 子どもを守る会編『子ども白書』かもがわ出版、各年度版
41. 夾竹桃ジン『新・ちいさいひとと青葉児童相談所物語(1)～(14)』小学館、2016年～2024年
42. 宮本みち子編著『若者の権利と若者政策』明石書店、2023年
43. 両角達平『若者からはじまる民主主義—スウェーデンの若者政策』萌文社、2021年
44. 平塚真樹編『ユースワークとしての若者支援—場をつくる・場を描く—』大月書店、2023年

地域福祉に関するもの

45. 朝比奈ミカ・菊池馨実編『地域を変えるソーシャルワーカー』岩波ブックレット、2021年
46. 宮城 孝『住民力—超高齢社会を生き抜く地域のチカラ—』明石書店、2022年
47. 藤里町社会福祉協議会・秋田魁新報社『ひきこもり町おこしに発つ』、秋田魁新報社、2012年
48. 越智和子『地域で最後まで支える 琴平社協の覚悟』全国社会福祉協議会、2019年

グリーフケアを知る

49. E・キューブラ・ロス／川口正吉訳『死ぬ瞬間』読売新聞社、1971年
50. 広井良典『死生観を問いなおす』ちくま新書、2013年
51. ジュディス・A・コーエン、アンソニー・P・マナリノ、エスター・デブリンジャー／白川美也子、菱川愛、富永良喜監訳『子どものトラウマと悲嘆の治療』金剛出版、2014年
52. 坂口幸弘『悲嘆学入門：死別の悲しみを学ぶ 増補版』昭和堂、2022年
53. 宮林さちえ／関本昭治『はじめて学ぶグリーフケア (第2版)』日本看護協会出版会、2022年
54. 坂口幸弘『自分のためのグリーフケア—大切な人を亡くしたあなたへ』創元社、2023年
55. 山本力『悲しみといのちの時熟—続・喪失と悲嘆の心理臨床学』誠信書房、2025年
56. 大橋洋平『がんになった緩和ケア医が、本気でホスピスを考えてみた』双葉社、2025年
57. 浜田奈美『最後の花火：横浜こどもホスピス「うみそら」物語』朝日新聞出版、2024年

海外事情・多文化共生について

58. 千葉忠夫『世界—幸福な国デンマークの暮らし方』PHP新書、2009年
59. 堤未香『ルポ貧困大国アメリカ I・II』岩波新書、2009年・2010年
60. 横田増生『フランスの子育てが、日本よりも10倍楽な理由』洋泉社、2009年
61. ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社、2019年
62. 宮島 喬『「移民国家」としての日本 共生への展望』岩波新書 2022年
63. 橋本直子『なぜ難民を受け入れるのか—人道と国益の交差点』岩波新書、2024年
64. 塩川 伸明『民族とネーション：ナショナリズムという難問』岩波新書、2008年
65. 中井 遼『ナショナリズムとは何か—帰属、愛国、排外主義の正体』中公新書、2025年
66. 澤田 晃宏『ルポ 技能実習生』ちくま新書、2020年
67. 是川夕『ニッポンの移民—増え続ける外国人とどう向き合うか』ちくま新書、2025年
68. 小熊英二『<日本人>の境界—沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』新曜社、1998年
69. 水野直樹『生活の中の植民地主義』人文書院 2004年

70. 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史-交隣と属国、自主と独立』講談社選書、2008年
71. 岩淵功一『多様性とどう向き合うか—違和感から考える』岩波新書、2025年
72. 田中宏『「共生」を求めて在日とともに歩んだ半世紀』解放出版社、2019年
73. 中村康利『アイヌ民族、半生を語る—貧困と不平等の解決を願って』さっぽろ自由学校、2009年
74. 北原モコットウナシ『アイヌもやもや』303BOOKS、2023年
75. 康潤伊、鈴木宏子、丹野清人『わたしもじだいのいちぶです：川崎桜本ハルモにたちがつづった生活史』日本評論社、2019年
76. かわさきのハルモニ・ハラボジと結ぶ 2000 人ネットワーク生活史聞き書き編集委員会『在日コリアン女性 20 人の軌跡』赤石書店、2009年
77. 陳天璽『無国籍』新潮文庫、2011年
78. 金春喜『「発達障害」とされる外国人の子どもたち』明石書店、2020年

その他

79. 金子 郁容『ボランティアもうひとつの情報社会』岩波新書、1992年
80. 見田宗介『まなざしの地獄』河出書房新社、2008年
81. 井手英策・柏木一恵・加藤忠相・中島康晴『ソーシャルワーカー—「身近」を革命する人たち』ちくま新書、2019年
82. 村上 芽『少子化する世界』日経プレミアシリーズ、2019年
83. 内田 樹編『人口減少社会の未来学』文春文庫、2021年

Ⅲ 地域づくりへの招待

「地域経営」の観点から（地域づくりの各地の先発事例も含めて）

1. 内橋克人『共生の大地 新しい経済が始まる』岩波新書、1995年
2. 神野直彦『「希望の島」への改革 分権型社会をつくる』NHK ブックス、2001年
3. 田村明『まちづくりの実践』岩波新書、1999年
4. 西川一誠『ふるさとの発想』岩波新書、2009年
5. 本間義人『地域再生の条件』岩波新書、2007年

「住まい」の観点から

6. 本間義人『居住の貧困』岩波新書、2009年
7. 藤木哲也『空き家幸福論』日経 BP、2020年

「社会的起業」や「仕事づくり」の観点から

8. 小倉昌男『福祉を変える経営』日経 BP、2003年
9. 駒崎弘樹『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年
10. 小暮真久『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年

「地域文化」の観点から

11. 西村幸夫・埜正浩編著『証言・町並み保存』学芸出版社、2007年
12. 森まゆみ『東京遺産—保存から再生・活用へ—』岩波新書、2003年
13. 日本建築学会編『生活景』学芸出版社、2009年
14. 写真文化首都「写真の町」東川町編『東川ものがたり』新評論、2016年
15. 山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子『地域文化の再創造 暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024年

「食や農」の観点から

16. 大江正章『地域の力—食・農・まちづくり』岩波新書、2008年
17. 徳野貞雄『農村の幸せ、都会の幸せ 家族・食・暮らし』日本放送出版協会（生活人新書）、2007年
18. 小口広太『日本の食と農の未来 「持続可能な食卓」を考える』光文社新書、2021年

「災害対応」の観点から

19. 野口健『震災が起きた後で死なないために』PHP新書、2017年
20. 片田敏孝『人に寄り添う防災』集英社新書、2020年

「教育」の観点から

21. ジョン・デューイ『学校と社会』岩波文庫、1957年
22. イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』東京創元社、1977年
23. 牧野篤『「つくる生活」がおもしろい 小さなことから始める地域おこし、まちづくり』さくら舎、2017年
24. 公民館のしあさって出版委員会編『公民館のしあさって』ボーダーインク、2022年

地域を捉える視点を幅広く学ぶ

25. 宮本常一『民俗学への旅』講談社学術文庫、1993年
26. 内田樹『日本辺境論』新潮新書、2009年
27. 佐野眞一『目と耳と足を鍛える技術』ちくまプリマー新書、2008年
28. 洪沢栄一（守屋淳訳）『現代語訳論語と算盤』ちくま新書、2010年
29. 山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書、2004年
30. ジェローム・クレマン著『娘と話す 文化ってなに？』現代企画室、2008年
31. 水柿大地『21歳男子、過疎の山村に住むことにしました』岩波ジュニア新書、2014年
32. 今森光彦著『里山を歩こう Part2 ーわき水の里から琵琶湖へ』岩波ジュニア新書、2008年
33. 高橋博之『関係人口 都市と地方を同時並行で生きる』光文社新書、2025年

IV 心理への招待

心理学の基礎的理解にかかわる本

1. ダレル・ハフ『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス B120、1968年
2. 斎藤勇『イラストレート心理学入門 [第3版]』誠信書房、2020年
3. 長谷川勝也『イラスト・図解 確率 統計のしくみがわかる本』技術評論社（2000年）
4. スティーブン・ピンカー『心の仕組み』（上・下）ちくま学芸文庫 2013年
5. ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』（上・下）ハヤカワ文庫、2014年
6. 鈴木宏昭『認知バイアス 心に潜むふしぎな働き』講談社ブルーバックス、2020年
7. 鹿毛雅治『モチベーションの心理学 「やる気」と「意欲」のメカニズム』中公新書、2022年
8. 今井むつみ・秋田喜美『言語の本質 ことばはどう生まれ、進化したか』中公新書、2023年
9. 大芦治『無気力なのはワケがある 心理学が導く克服のヒント』NHK出版新書、2013年

こころの発達にかかわる本

10. 河合隼雄『子どもの宇宙』岩波新書、1987年
11. 河合隼雄『大人になることのむずかしさー青年期の問題』岩波現代文庫、2014年
12. 明和政子『ヒトの発達の謎を解く』ちくま新書、2019年
13. 森口佑介『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』講談社現代新書、2019年
14. 森口佑介『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』PHP新書、2021年
15. セルマ・H・フレイバーグ『小さな魔術師ー幼児期の心の発達』金子書房、1992
16. 小倉清『子どものこころ：その成り立ちをたどる』慶応義塾大学出版、1996

脳と精神病理にかかわる本

17. 下篠信輔『<意識>とは何だろうかー脳の来歴・知覚の錯誤』講談社現代新書、1999年
18. 佐々木正人『アフォーダンス入門ー知性はどこから生まれるか』講談社学術文庫、2008年
19. 木村 敏『異常の構造』講談社学術文庫、2022年

心理療法にかかわる本

20. 村瀬嘉代子・青木省三『心理療法の基本 [完全版]』 金剛出版、2014 年
21. バージニア・M・アクスライン『開かれた小さな扉ーある自閉児をめぐる愛の記録』日本エディター
スクール出版部、2008 年
22. 村瀬嘉代子監修・高橋利一編『子どもの福祉とこころー児童養護施設における心理援助』新曜社、2002
年
23. 諸富祥彦編著『カウンセリング／臨床心理学を学ぶ人のためのセラピストの言葉』コスモス・ライブラ
リー、2014 年
24. 岩井 寛 著 『森田療法』 講談社現代新書、1986 年
25. 帯木 蓬生 著 『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』朝日新聞出版、2017
年

文化と臨床心理学にかかわる本

26. V・E・フランクフル『夜と霧』 みすず書房、2002 年
27. 土居健郎『「甘え」の構造』 弘文堂、2007 年
28. アインシュタイン、A & フロイト、S (浅見昇吾訳)『人はなぜ戦争をするのか』中公新書、2016 年

V 読書と文章表現そして論文・レポートの書き方

1. 加藤周一『読書術』岩波現代文庫、2000年
2. 辰濃和男『文章の書き方』岩波新書、1994年
3. 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年
4. 澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977年
5. 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会、2018年
6. 古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』ちくま新書、1997年
7. 酒井浩二『論理性を鍛えるレポートの書き方』明治書院、2009年
8. 斉藤孝『読書力』岩波新書、2002年
9. 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018年
10. 戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK BOOKS、2022年
11. 佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か?』ちくま新書、2024 年
12. 宮野公樹『問いの立て方』ちくま新書、2021 年
13. 伊勢田哲治『倫理思考トレーニング』ちくま新書、2025 年
14. 小熊 英二『基礎からわかる 論文の書き方』講談社現代新書、2022 年
15. 佐藤信 (編集)『オーラル・ヒストリー入門』ちくま新書、2025 年
16. 石黒圭『この1冊できちんと書ける! 【新版】論文・レポートの基本』日本実業出版社 2024 年

以 上